

クリーン作戦参加に続き、改めて渡辺市長と面会したときの様子です。
和やかな雰囲気の中、干潟や木更津の風景についてお話が進みました。

市長：本日は木更津にお越しくださりありがとうございます。昨年度の図書館での文芸講演会、先日開催した盤洲干潟のクリーン作戦と、小説『パパイヤ・ママイヤ』からこんなにご縁が続き嬉しく思います。

乗代：こちらこそありがとうございます。

『パパイヤ・ママイヤ』は市長から職員のみなさまへご紹介があったと伺って、そんなことがあるのかと驚きました。

どんなきっかけで知ってくださったのですか。

市長：東京に住んでいる友達から「こんな本がでたよ」と連絡をもらいました。そこですぐに職員に紹介しました。

図書館にも文芸講演会ではよい企画をしてもらいました。

講演会には参加できなかったのですが、この作品ができあがるまでのいきさつをもう一度お伺いしてもいいですか。

乗代：そもそも木更津に足を運んだことを、昨日思い返していました。

なぜ木更津だったのだろうか？と木更津のあゆみを読みながら考えていました。

銚子や佐原などを歩き『旅する練習』を書いた時、「馬乗り

馬頭観音」に興味を持ちました。「馬乗り馬頭観音」とは、「馬頭観音」が独自の進化を遂げ、工夫が積み重なったもので、馬を愛する気持ちが進化し、馬頭観音を馬に乗せるということがおもしろいなと思いました。その「馬乗り馬頭観音」の元祖がこの辺りの地域でできたものだということを知り、木更津へ行こうと思いました。

木更津に来たなと思うのは、内房線に乗ってきて、長須賀のはす田を見ると「ああ木更津に来たな」と思います。『旅する練習』では、土浦に広がるはす田を書いていて、はす田に関しても調べました。他にも、潜ることも飛ぶこともできる万能な川鵜という鳥が好きで、利根川を歩いている際、羽を広げて乾かしている姿を何度も見かけました。

市長：鵜は盤洲干潟でも随分見かけたと思います。

乗代：はい、盤洲干潟にもいました。

市長：あれは川鵜ですか。



乗代：はい、海鵜も混ざっていると思いますが、ほぼ川鵜です。

市長：最近あまり見かけなくなってきましたが…

乗代：そうなんです。川鵜がいると聞いて、まず干潟に行ってみようと思いました。初めて行った2年前にはもう巣を作らなくなったと聞きました。

市長：以前は浸透実験地の周りが真っ黒になるくらい鵜がいたそうですね。

乗代：はい、そのような様子を見られるといいなあと思っていましたが、実際に行ったら閑散としていました。あと、館林市の分福茶釜から狸伝説が気になり、いろいろ調べたのですが、はす田に鵜にたぬきとこんなに好きなものが揃っている町もないなあと歩いていて思いました。延べ40～50日滞在しているのですが、今まで僕が書いて興味を持ってきたものがすべてあることに気づきました、海も山も川もあって、だから好きなのかなと思いました。坪田譲二文学賞を岡山でもらったとき、朝ドラの「カムカムエブリディ」を放送していたのですが、そのドラマでは木更津にある證誠寺の狸囃子がモデルとなっている歌の英語版が流れていたり、いろいろなつながりやご縁を感じています。

このようなことから、木更津に来て、気に入って小説を書かせていただいたということです。



市長：その中で、きっかけというか、作品の題材として目をつけていただいたのが干潟だったのですね。

乗代：はい、僕はひとりでいられるところが好きで歩き回っているところがあり、景色と文化と自然のおもしろさがすべて干潟にありました。最初は小説を書こうと思っていなかったのですが、また行きたいなと思い、何回か行くうちに机ではなく干潟で書こうと挑戦を

試みました。

市長：実際に干潟で書かれたのですか。

乗代：そうですね。1日中干潟にいるというのを30日くらい繰り返したので。直しは家で行いましたが、ほぼ干潟で書きました。

市長：盤洲干潟は東京湾の中で唯一の自然干潟なのですが、どのように感じていますか。

乗代：干潟の取材と並行して、東京湾沿岸をほぼ全部歩くということをやりました、海苔の養殖が盛んだった大田区の大森は、ほぼ埋め立てられ何も残っていなく、海苔問屋だけが残っているという状況でした。木更津はまだ海

苔を採っているのも、その特殊性を感じました。守ろうとしなければ守られないものなので、運もあると思います。開発しようとしてもだめだったので残されたなど、そこは人間と自然とのせめぎあいであり、思い通りにいかないものだから残されるということがおもしろいと思いました。

市長：本当に見事に残っているなと感じます。

干潟をまもる会などが陳情をだしたり、請願を出したりと、干潟を残したいという地元の人の気持ちが強かったのも、木更津は干潟が残ったのだと思います。

現在は環境部を中心に保全を行い、みなさんが干潟の価値を理解してくれていると思います。

乗代：干潟クリーン作戦にたくさんの参加がありすごいなあと思いました。

市長：その干潟を舞台にした小説『パパイヤ・ママイヤ』は、タイトルがいいなあと思いました。

乗代：木更津に来ると学生さんを多く見かけるのと、ウルフルズの初期の曲のタイトルを拝借しています。

最初は、主人公は女の子ではなかったのですが、干潟の倒木に座り潮の満ち引きを見ながらひとりで過ごすうちに、女の子ふたりの物語だなと物語ができてきました。

人間に関しては僕が考えますが、場所や動きなど起こることはすべて自然に任せて書いています。変わり続ける場所というものはあまりないので、光の動きなどおもしろいです。

市長：ずっと干潟を見ていたことはないですからね（笑）

乗代：見続けることはなかなか大変だと思います（笑）

すごく日焼けもしましたし（笑）

潮の満ち引きで、波打ち際が遠くへいっても、きちんとそこに波打ち際が存在することがおもしろいなあと思いました。

そこで潮流を調べてみたりしました。拾ったペットボトルにテグスを結び、何十回とチャレンジしました。一回沖まで流れたので、実際に起こったことだから書いても大丈夫ということで書きました。

市長：富津岬まで行かれ、作中に出てくるペットボトルが戻ってくることを調べられたと伺いました。



乗代：はい。海図を取り寄せ潮の流れを確認しました。

そして富津岬の展望台に登り、半日ぐらい見ていると、子ども用の浮き輪が戻ってくるのが確認できたので、よし！書ける！と思いました。

『パパイヤ・ママイヤ』は場所と海に書かせていただいた小説です。

この辺りでなければ書けない小説だと思っています。

市長：『パパイヤ・ママイヤ』は映画になりそうなお話ですね。

乗代：はい、ロケハンと言うか下見は済んでいます（笑）

市長：作家さんはみなさんそのように書かれるのですか。

乗代：ここまで取材して、現実には起こったことしか書かないという作家はほぼ聞いたことがありません。だからこそやりたかったのですが、場所を探ることが難しく、方々を歩き回っていますが、なかなか見つかりません。また、書いているうちに、もっといい場所ないかなと、自分の中のハードルを上



げてしまい、大変だなあと思っていたところに木更津が表れてくれました。

市長：乗代先生は、歩いて取材をするとのことなので、私たちが知らないような場所をご存知なのではないでしょうか。はす田も昔はもっと広く、見渡す限りはす田が続いていました。現在、はすの栽培をやっているところがありますが、井戸水を使用しオーガニックの認証を取得したそうです。セイタカシギやカルガモの親子が来ているようです。

乗代：年中きれいな水を張ってあるところは少ないですからね。

市長：木更津市はオーガニック給食を取り入れていまして、オーガニックな田んぼには蛙や微生物がたくさんいたりするので、生物は本当に敏感だなと思いました。その敏感な生物が生きていける環境がとても大切だと思っています。

乗代：歩いているとその辺りは感じます。手間を考えると大変だと思いますが、自然の力で育てているところを歩くと、やはりいい景色だなと思います。



市長：盤洲干潟もせっかくの自然干潟なので、たくさんの人の目に触れてほしい気持ちと、保存していかなければならないという思いがあります。

乗代：観光地化していたら、きっと僕はこんなに訪れなかったと思います。

東京湾内にも干潟として残してあるところはいくつかありますが、そこはゴミがほぼなく、周辺も含め管理された干潟なのだなと思います。木更津は自然の流れがあるからこそ、あんなにたくさんのゴミが流れつくのだと思いました。自然が残っているからこそ、ゴミが流れつくという印象です。なので、小説の中でもゴミをきちんと書きたいと思いました。

他の干潟が管理されてしまったので、木更津にゴミが集まりやすくなってしまったこともあると思いますが、みなさんの協力で自然な干潟が保たれているのだとクリーン作戦に参加して実感しました。貴重な経験でした。

市長：『パパイヤ・ママイヤ』では印象的なゴミが書かれていますが、先日のクリーン作戦では何か気になったゴミはありましたか（笑）

乗代：ありました（笑）立派な羽目板の飾りがあり、どんな家のどんな部屋にはめていたのかなと（笑）見たことのないものもあったりしたので、それも楽しみながらゴミ拾いを行っていました（笑）人間が暮らしているなと思いました。

流木と倒木の形が毎回変わることも好きです。

市長：そんなに変わりますか。

乗代：はい、満潮時の波の上がり下がりですぐに変化します。今日は座りやすい配置だな…などと楽しんでいました。一度とても高く組みあがっているときがあり、高い場所へ座ることができとても嬉しかったです（笑）

一度訪れただけではわからないことがたくさんあり、自分がいない間に何が起こったのだろうと。管理されている干潟では、あまりその変化はないと思うので、楽しい日々でした。

市長：沖はどの辺りまで行かれましたか。

乗代：干潮時に1キロメートルくらい先まで行きました。そこでペットボトルを投げる実験をしました（笑）振り返って見ると、すごいなあ…あんなところまで海だったのか…と思いました。

市長：アクアライン通過中に干潟を見て、1キロメートル先のところに人がいたらびっくりします（笑）

乗代：確かに、手ぶらの人間がペットボトルを投げていたら奇妙ですね（笑）

市長：1キロメートル先はかなり距離がありますからね（笑）帰る体力を残して



おかないといけませんね。

乗代：潮の戻るスピードにドキドキします。そんなに早くない思いながらも、要らぬ心配を抱きながら歩いて戻りました。

市長：木更津の魅力ですが、干潟が残っていて、オーガニックな田んぼがあって、ブルーベリーもオーガニックの認証を取ってみなさんが頑張ってくれています。海から山まで残っているところが木更津なので、それぞれの場所を活かしていきたいと思っています。いっせんぼくには行かれましたか。

乗代：近くまでは行きました。

水の流れもあるので、『パパイヤ・ママイヤ』の続編もちょっと考えていまして、何年後でもいいので、まちの変化と変わらないものが見えてきたときに書きたいなと思っています。

市長：主人公は変わらないですか。

乗代：はい。行動範囲が広くなると思うので、まち全体をイメージしています。子どもの頃は世界が狭く、それでも海を見て広いところへという感覚があったのですが、成長してもっと広い目で見られるのかなと思います。そのためにも、今後も木更津には通わせてもらいます。

市長：乗代先生の定点観測を楽しみにしています。

今後は何か題材になるものはありますか。

乗代：先日、君津市の三舟山を題材に短いものを書かせてもらいましたが、まだまだこの辺りにはたくさんあるなと思っています。海があり、山があり、川もあるということに興味は続いています。僕は気に入った場所は取材関係なく何度と訪れるので、その中で何かまた見つかるかなと思います。まだまだ木更津の中には知らない場所や行ったことのない場所がたくさんあるので、今後もお世話になります（笑）

市長：木更津の魅力が世間の皆さんに伝わるよう、ぜひ協力させていただきます！

